

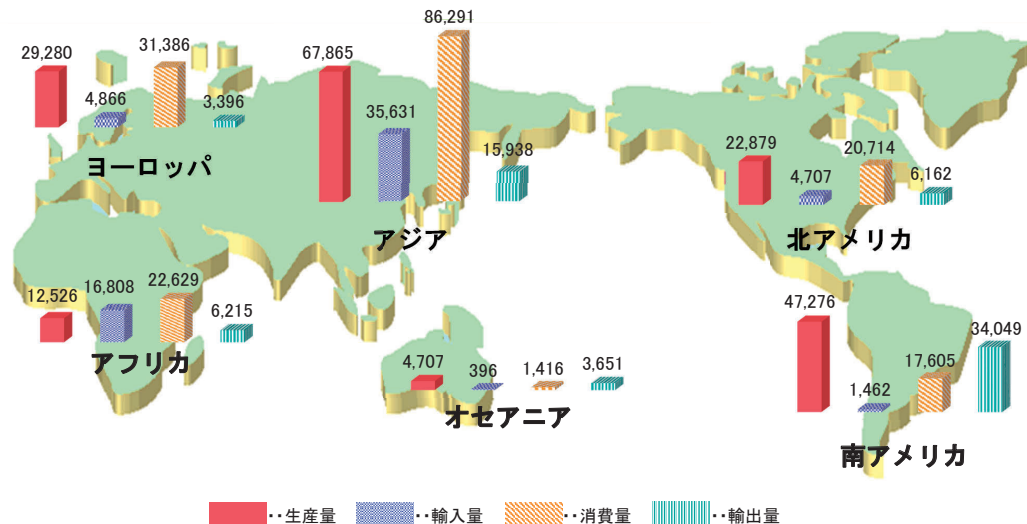
砂糖の国際需給

調査情報部 塩原 百合子

1. 世界の砂糖需給（2020年9月時点予測）

図1 絵で見る世界の地域別の砂糖需給（2020/21年度予測値）

（千トン〈粗糖換算〉）



資料：英国の民間調査会社LMC International「Quarterly Statistical Update, September 2020」

注1：年度は国際砂糖年度（10月～翌9月）。

注2：ヨーロッパには、ロシアを含む。

表1 世界の砂糖需給の推移

（単位：千トン〈粗糖換算〉、％）

年度	期首在庫量	生産量	輸入量	消費量	輸出量	期末在庫量	期末在庫率
1990/91	31,180	114,134	26,729	106,623	28,254	37,165	34.9
1995/96	44,812	122,392	33,811	116,115	36,615	48,284	41.6
2000/01	64,678	130,768	38,567	131,079	40,945	61,989	47.3
2005/06	57,700	151,186	47,535	150,003	50,013	56,404	37.6
2010/11	50,821	166,769	54,668	165,847	58,206	48,206	29.1
2015/16	73,774	175,955	67,776	178,680	69,077	69,748	39.0
2016/17	69,748	180,387	70,759	181,337	71,288	68,268	37.6
2017/18	68,268	195,704	65,880	180,481	67,716	81,655	45.2
2018/19	81,655	186,749	61,167	183,180	61,746	84,646	46.2
2019/20	84,646	180,721	67,265	177,675	70,186	84,771	47.7
2020/21 (2020年9月予測)	84,771	184,534	63,871	180,040	69,411	83,725	46.5

資料：LMC International「Quarterly Statistical Update, September 2020」

注1：年度は国際砂糖年度（10月～翌9月）。

注2：2018/19年度および2019/20年度の数値は推定値、2020/21年度の数値は予測値。

注3：期末在庫量は（期首在庫量＋生産量＋輸入量－消費量－輸出量）。

注4：期末在庫率は、期末在庫量を消費量で除した割合。

「世界の砂糖需給」「主要国の砂糖需給」は四半期ごとの報告となっているので、次回は2021年1月号の掲載予定となります。直近の内容は2020年10月号をご参照ください。

「世界の砂糖需給」：https://www.alic.go.jp/joho-s/joho07_002306.html

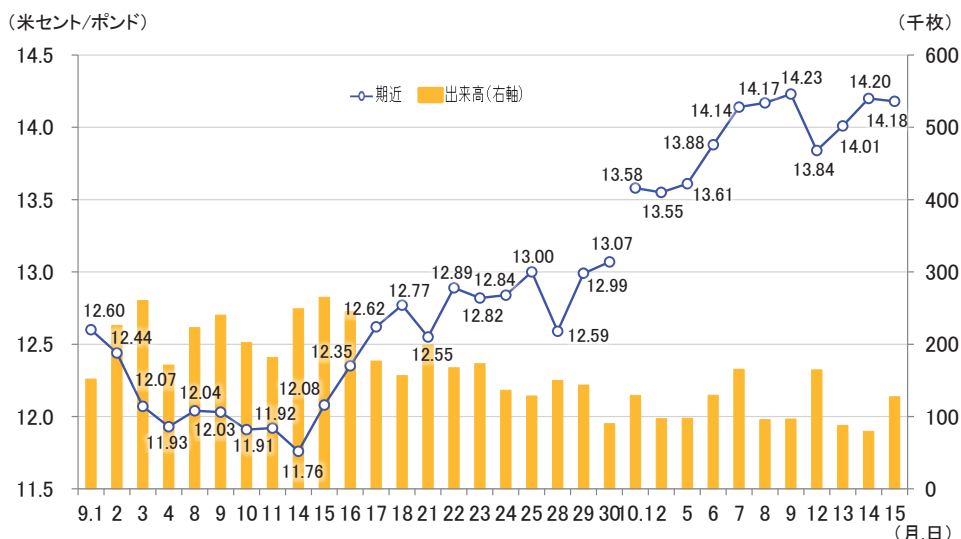
「主要国の砂糖需給」：https://www.alic.go.jp/joho-s/joho07_002307.html

2. 国際価格の動向

ニューヨーク粗糖先物相場の動き (9/1 ~ 10/15)

～ 10月限は13セント台で期日迎え、3月限は14セント台まで上昇～

図2 ニューヨーク粗糖先物相場の動き



資料：インターコンチネンタル取引所 (ICE)
注：9月は期近10月限、10月は期近3月限の値。

ニューヨーク粗糖先物相場の2020年9月の推移を見ると（10月限）、1日は国際砂糖機関（ISO）が2020/21年度の世界の砂糖生産量が増加すると予測したことを受け、1ポンド当たり12.60セント^{（注1）}を付けた。4日は、原油価格が安値を付けたため、同11.93セントまで下落した^{（注2）}。8日は、ショートポジションをカバーするための買い戻し^{（注3）}が入ったことで、同12.04セントまで上昇した。10日は、ブラジルサトウキビ産業協会（UNICA）がブラジル産糖の増産予測を示したことなどから、同11.91セントまで値を下げた。14日は、インドにおいて平年より雨季の降雨量が多かったことが発表され、サトウキビの収量が増えるとの予測から同11.76セントまで下落した。15日は、ブラジルリアルが対米ドルで6週間ぶりの高値をつけたことなどから同12.08セントと反発した^{（注4）}。その後は原油価格の上昇に伴い続伸し、18日は同12.77セン

トまで値を上げた。21日は、原油価格の落ち込みやリアル安を受けて同12.55セントと急落したが、22日は米国政府がブラジル産糖や豪州産糖の関税割当枠を拡大したこと（3のブラジルの項を参照。）や豪州産糖の減産予測などが影響し、同12.89セントまで急伸した。25日は、タイ産糖の減産予測が市場に広まり、同13.00セントと約1カ月ぶりに13セント台に乗せた。28日は、インド産糖の増産予測やリアル安を受け同12.59セントと急落したものの、29日は同12.99セントまで値を戻した。10月限の期日を迎えた30日は、原油価格の上昇を受けて、同13.07セントの値を付けた。

10月（3月限）に入ると、1日は、今後の砂糖供給量が減少するとの懸念から同13.58セントの値を付け、7日には、7カ月ぶりの14セント台となる同14.14セントまで値を上げた。さらに、9日はラニーニャ現象^{（注5）}によってブラジルのサトウキ

び栽培地域で降雨量が減少し、砂糖生産量が減少するとの見込みから5日連続で続伸し、同14.23セントまで上昇した。12日は、ブラジルのサトウキビ生産地域で雨が降るとの予報を受けて同13.84セントと反落したものの、13日は、原油価格の上昇により、同14.01セントと再び14セント台まで値を戻した。14日は、原油価格の上昇を受けて続伸し、同14.20セントまで値を上げた。

(注1) 1ポンドは約453.6グラム、セントは1米ドルの100分の1。

(注2) 一般に、原油価格が下落すると、石油の代替（補填）燃料であるバイオエタノールの需要も低下する。バイオエタノールの需要が低下すると、その原料作物（サトウキビ、てん菜、トウモロコシ、

キャッサバなど）のバイオエタノール生産への仕向けが減る一方、それらから生産される食品（サトウキビの場合は砂糖）の生産・供給が増えることが想定される。食品用途仕向けの度合いが大きくなるほど需給が緩和し、当該食品の価格を押し下げる方向に作用する。

(注3) 売買差益を狙い、将来の値下がり期待して売りの持ち高を取っていた金融資産を、決済のために買い戻すこと。

(注4) 粗糖は米ドル建てで取引されるため、米ドルに対してレアルが高くなると、相対的にブラジル産粗糖の価格競争力が弱まる。世界最大の砂糖輸出国ブラジルの輸出意欲が低下すれば、需給のひっ迫につながることから、価格を押し上げる方向に作用する。

(注5) 太平洋赤道域の日付変更線付近から南米沿岸にかけて、海面水温が平年より低くなる状態が続く現象。

3. 世界の砂糖需給に影響を与える諸国の動向（2020年10月時点予測）

ブラジル

2020/21年度（4月～翌3月）の見通し

【サトウキビ】

収穫面積：864万ha（前年度同）

生産量：6億5600万トン（前年度比2.1%増）

【砂糖（甘しゅ糖）】

生産量：4359万トン（同37.0%増）

輸出量：3371万トン（同65.9%増）

2020/21年度、砂糖生産量、輸出量ともに大幅増の見込み

LMC International（農産物の需給などを調査する英国の民間調査会社）の2020年10月時点の予測によると（以下、特段の断りがない限り同予測に基づく記述）、2020/21年度（4月～翌3月）のサトウキビ収穫面積は、原油の国際価格の動きに不安定さが見られ、バイオエタノール需要にも不透明感があるものの、バイオ燃料など再生可能エネルギーの生産・利用の促進を図るブラジルの国家政策「RenovaBio」の本格始動が生産意欲を後押しする可能性があることも踏まえ、864万ヘクタール（前

年度同）と横ばいで推移すると見込まれる（表2）。サトウキビ生産量は、生育期間を通じて天候がおおむね良好で生育が順調であることから、6億5600万トン（前年度比2.1%増）とわずかに増加すると見込まれる。

一方、砂糖生産量は、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）によるバイオエタノール需要の不透明感を背景に、多くの製糖業者が砂糖生産に回帰する動きが見られることから、4359万トン（粗糖換算〈以下、特段の断りがない限り砂糖に係る数量は粗糖換算〉、同37.0%増）と大幅に増加すると見込まれる。この予測の下、ブラジル通貨レアルが米ド

ルに対して安値圏で推移することで輸出意欲が向上し、輸出量は3371万トン（同65.9%増）と大幅に増加すると見込まれる。

米国政府、ブラジル産糖向け関税割当枠を8万トン追加すると発表

米国通商代表部（USTR）は9月22日、同国農務長官が同月10日に発表した2019/20年度における粗糖の関税割当枠の追加について、うち8万トンをブラジル、1万718トンを豪州へ分配することを発表した。また、同年度の粗糖の関税割当枠の適用期限も砂糖年度末の9月30日から10月31日まで延長された。ブラジルのボルソナロ大統領は、ブラジルと米国間で近年行われた砂糖およびエタノールに関する貿易交渉において初めての成果である

と語ったものの、UNICAなどの業界団体は「今回の割当枠の追加は、米国が国内需要を賄えなかったり、他国が事前の見積数量を適切に供給できなかったりした際に実施する通常の手続きであり、貿易交渉の成果とは言えない」と指摘し、「ブラジルが9月に発表した米国産エタノールの無税枠の再設に比べ、規模がかなり小さい^{（注）}」と主張した。

（注）米国産エタノールの無税枠をめぐる経緯については、『砂糖類・でん粉情報』2020年9月号「エタノールの輸入関税をめぐるトランプ政権から圧力」（https://www.alic.go.jp/joho-s/joho07_002293.html）および2020年10月号「米国産エタノールの輸入について、無税枠を90日間に限り再設」（https://www.alic.go.jp/joho-s/joho07_002309.html）も参照されたい。

表2 ブラジルの砂糖需給の推移

（単位：千ha、千トン）

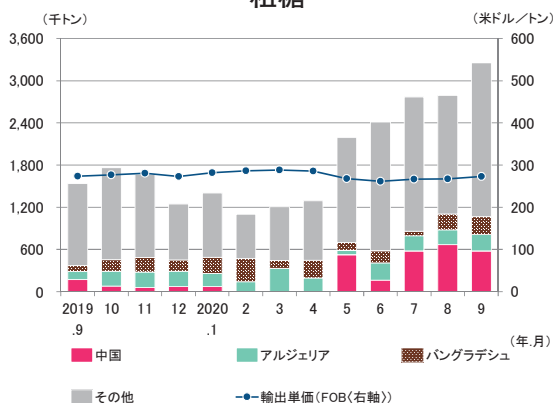
年度	2017/18	2018/19	2019/20	2020/21 (9月予測)	2020/21 (10月予測)	前年度比 (増減率)
サトウキビ収穫面積	8,617	8,649	8,645	8,642	8,642	▲ 0.0%
サトウキビ生産量	641,066	620,832	642,219	646,000	656,000	2.1%
砂糖	生産量	41,517	31,225	43,183	43,585	37.0%
	輸入量	2	3	3	3	28.4%
	消費量	10,852	10,635	10,413	10,521	▲ 0.9%
	輸出量	31,026	21,017	33,415	33,709	65.9%
	期末在庫量	663	239	470	470	▲ 57.7%
	期末在庫率	1.6	0.8	3.6	1.1	2.5ポイント減

資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, October 2020」

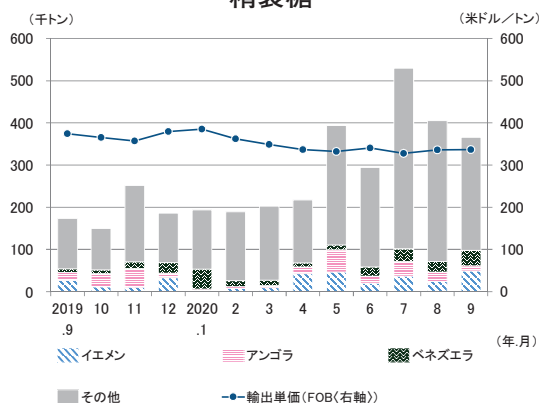
注：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

（参考）ブラジルの砂糖（粗糖・精製糖別）の輸出量および輸出単価の推移

粗糖



精製糖



資料：「Global Trade Atlas」

注1：HSコード1701.14（粗糖）および1701.99（精製糖）の数値。

注2：国・地域別の数値は、直近13カ月の輸出量（累計）上位3カ国を表示。

インド

2020/21年度（10月～翌9月）の見通し

【サトウキビ】

収穫面積：477万ha（前年度比7.4%増）

生産量：4億93万トン（同15.7%増）

【砂糖（甘しゅ糖）】

生産量：3397万トン（同15.4%増）

輸出量：626万トン（同18.8%減）

2020/21年度、砂糖生産量はかなり大きく増加し、輸出量は大幅に減少する見込み

2020/21年度（10月～翌9月）のサトウキビの収穫面積は、豪雨による大規模な圃場の浸水被害に見舞われた昨年度からの反動で、477万ヘクタール（前年度比7.4%増）とかなりの程度増加すると見込まれる（表3）。サトウキビの主産地であるマハラシュトラ州では、年間降雨量が集中するモンスーン期（6～9月）における降雨が順調であることから、ダムの水位回復により、サトウキビ生産量は4億93万トン（同15.7%増）とかなり大きく増加すると見込まれる。

砂糖生産量は3397万トン（同15.4%増）とかなり大きく増加すると見込まれる。2019/20年度は、在庫量が多かったことから輸出が好調だったが、その反動から2020/21年度は一定の在庫量を確保するため、輸出量は626万トン（同18.8%減）と大幅に減少すると見込まれる。

ISMA、2020/21年度における砂糖の輸出政策の早期発表を首相官邸に要請

10月上旬の現地報道によると、インド製糖協会（ISMA）は首相官邸に対し、10月から始まる2020/21年度の砂糖の輸出政策を早急に発表するよう要請した。

首相官邸は砂糖年度末となる9月に、世界貿易機関（WTO）の規則への整合性促進のため、輸出支援政策の段階的廃止（砂糖の輸出補助金を毎年20%ずつ削減）に努力することを発表した。新年度に入ってもいまだ概要は明らかになっていない。また、2019/20年度における砂糖の輸出補助金の支払いは全体の1割しか完了していない状況にあり、コロナ禍における厳しい財政状況を理由に、2020/21年度の輸出政策の発表を遅らせているとみられている。

毎年、10月から翌4月は、輸出競合国であるブラジルにおいて砂糖生産量が減少し、生産の端境期を迎える時期であるため、インドの製糖業者にとっては輸出を伸ばす格好の機会である。しかし、輸出政策が定まらない状況において、製糖業者においても契約規模を決められず、サトウキビの压榨開始を躊躇する状況となっている。

表3 インドの砂糖需給の推移

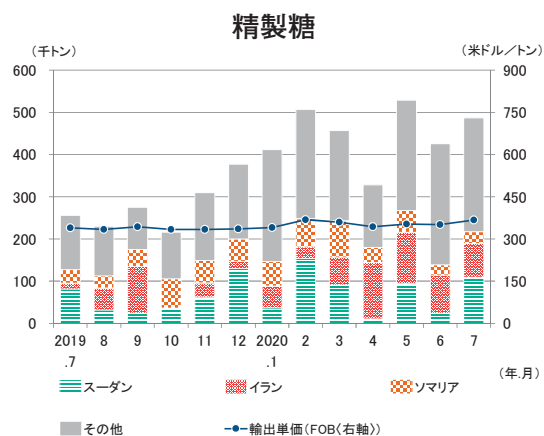
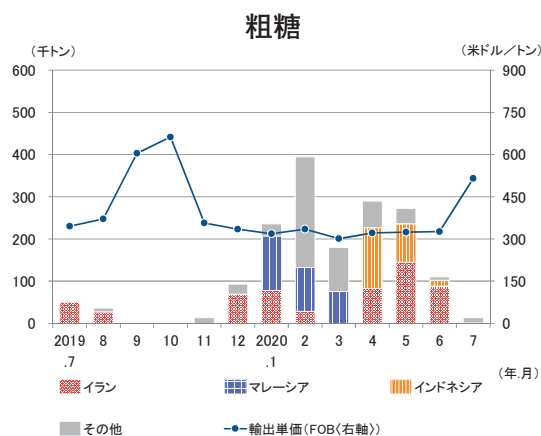
(単位: 千ha、千トン)

年度	2017/18	2018/19	2019/20	2020/21 (9月予測)	2020/21 (10月予測)	前年度比 (増減率)
サトウキビ収穫面積	4,794	4,960	4,441	4,938	4,768	7.4%
サトウキビ生産量	404,399	404,528	346,431	401,634	400,931	15.7%
砂糖	生産量	35,043	35,798	29,437	33,965	15.4%
	輸入量	2,308	664	1,686	1,300	▲ 11.0%
	消費量	27,421	27,540	27,007	28,322	4.9%
	輸出量	2,361	5,504	7,712	6,264	▲ 18.8%
	期末在庫量	11,522	14,940	11,344	12,030	7.8%
	期末在庫率	38.7	45.2	32.7	34.8	2.7ポイント増

資料: LMC International 「Monthly Sugar Information in Major Countries, October 2020」

注: 期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

(参考) インドの砂糖(粗糖・精製糖別)の輸出量および輸出単価の推移



資料: 「Global Trade Atlas」

注1: HSコード1701.14(粗糖)および1701.99(精製糖)の数値。

注2: 国・地域別の数値は、直近13カ月の輸出量(累計)上位3カ国を表示。

中国

2020/21年度(10月～翌9月)の見通し

【サトウキビ】

収穫面積: 118万ha (前年度比0.6%増)

生産量: 7480万トン (同0.4%増)

【てん菜】

収穫面積: 23万ha (同7.8%増)

生産量: 1145万トン (同5.1%増)

【砂糖(甘しや糖およびてん菜糖)】

生産量: 1136万トン (同0.8%増)

輸入量: 572万トン (同10.3%減)

2020/21年度、輸入量はかなりの程度減少する見込み

2020/21年度(10月～翌9月)のサトウキビの収穫面積は118万ヘクタール(前年度比0.6%増)とわずかに増加すると見込まれる(表4)。7月の干ばつにより停滞していたサトウキビの生育状況

は、8月には2つの台風によりもたらされた降雨により、回復の兆しが見られることから、サトウキビ生産量は7480万トン(同0.4%増)とわずかに増加すると見込まれる。

また、同年度のてん菜の収穫面積は、内モンゴル自治区において、てん菜の買取価格が引き上げられ

たことから、生産者が作付面積を拡大し、収穫面積は23万ヘクタール（同7.8%増）とかなりの程度増加し、てん菜生産量は1145万トン（同5.1%増）とやや増加すると見込まれる。

これら原料の増産に伴い、砂糖生産量は1136万トン（同0.8%増）とわずかに増加すると見込まれる。また、砂糖の国内在庫量が積み上がり、輸入糖の需要が低下すると予測されるため、輸入量は572万トン（同10.3%減）とかなりの程度減少すると見込まれる。

8月の砂糖輸入量、前年同月および前月から大幅に増加

一方、中国税関総署が9月23日に公表した2020

年8月の貿易統計によると、同月の砂糖輸入量は、前年同月比44.7%増、前月比2.2倍の68万トンと大幅に増加した。また、2019年10月からの累計では、322万トン（前年同期比14.2%増）とかなり大きく増加した。なお当該輸入量は、税関での正規手続きを経た数量であり、手続き外での輸入（密輸）分は含まれないため、実際の輸入量はさらに多いことが考えられる。しかし、業界関係者によると、今年度は、各国で新型コロナウイルス感染症（COVID-19）拡大抑制のために都市封鎖などの措置が実施されて物流が停滞したことや、供給元のタイやベトナムにおける砂糖生産量の減少などを背景に、手続き外での輸入量は減少傾向にあるということである。

表4 中国の砂糖需給の推移

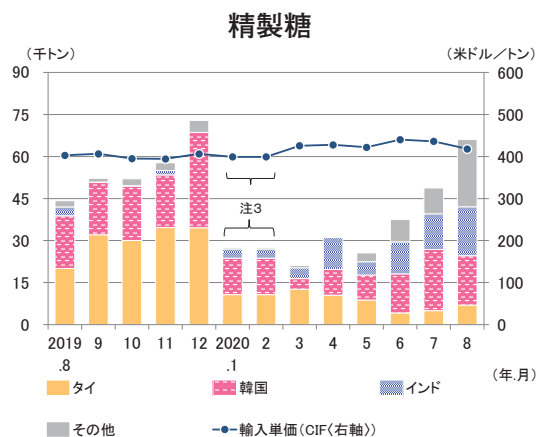
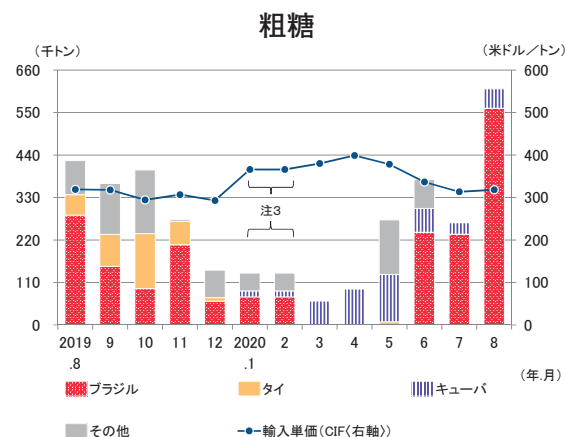
（単位：千ha、千トン）

年度	2017/18	2018/19	2019/20	2020/21 (9月予測)	2020/21 (10月予測)	前年度比 (増減率)
サトウキビ収穫面積	1,231	1,219	1,176	1,183	1,183	0.6%
サトウキビ生産量	76,780	78,590	74,490	74,800	74,800	0.4%
てん菜収穫面積	186	243	213	229	229	7.8%
てん菜生産量	9,590	11,670	10,900	11,451	11,451	5.1%
砂糖	生産量	11,147	11,640	11,355	11,355	0.8%
	輸入量	6,089	5,035	5,118	5,724	▲ 10.3%
	消費量	16,414	16,522	16,565	16,466	2.8%
	輸出量	182	210	203	218	▲ 3.5%
	期末在庫量	11,329	11,271	12,671	12,274	3.1%
	期末在庫率	68.3	67.4	78.0	73.2	0.3ポイント増

資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, October 2020」

注：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

（参考）中国の砂糖（粗糖・精製糖別）の輸入量および輸入単価の推移



資料：「Global Trade Atlas」

注1：HSコード1701.14（粗糖）および1701.99（精製糖）の数値。

注2：国・地域別の数値は、直近13カ月の輸入量（累計）上位3カ国を表示。

注3：2020年1、2月の数値は、中国海関総署（日本の税関に相当する組織）が公表した1～2月の合計値を等分した。

E U

2020/21年度（10月～翌9月）の見通し

【てん菜】

収穫面積：148万ha（前年度比2.6%減）

生産量：1億245万トン（同4.7%減）

【砂糖（てん菜糖）】

生産量：1646万トン（同3.1%減）

輸出量：195万トン（同3.4%増）

2020/21年度の輸出量は、やや増加する見込み

2020/21年度（10月～翌9月）のてん菜の収穫面積は148万ヘクタール（前年度比2.6%減）とわずかに減少すると見込まれる（表5）。てん菜生産量は7月の深刻な干ばつに見舞われた上、8月の降雨が少なかったことから1億245万トン（同4.7%減）とやや減少すると見込まれる。

EU最大のてん菜生産国フランスでの長引く干ばつや萎黄病^{いおう}の流行などが影響し、砂糖生産量は1646万トン（同3.1%減）とやや減少すると見込まれる。輸出量は195万トン（同3.4%増）とやや増加すると見込まれる。

フランス下院、ネオニコチノイド系農薬の緊急使用を含む法案を可決

フランス国民議会（下院）は10月6日、同国で2018年以降、使用が禁止されている^{（注）}ネオニコチノイド系農薬のてん菜種子へのコーティングを

2021年から最大2023年まで許可する法案を可決した。現地報道によると、同国農相は下院での審議において、同法案は同国の砂糖自給率の維持を目的としており、環境に悪影響を与えるものではないと説明したとしている。今後は元老院（上院）での審議に移り、10月27日に採択が予定されている。

同国では2020年に入って萎黄病の流行が各地で報告されており、てん菜の単収減少が危惧されている。てん菜生産者組合（CGB）は、「危機的状況にさらされているてん菜産業の持続可能性を確保するための、意欲的で勇気ある政府の取り組みを歓迎するとともに、上院での採択についても期待している」とのコメントを発表した。

（注）同農薬の使用をめぐる経緯については、『砂糖類・でん粉情報』2020年9月号「フランス、ネオニコチノイド系農薬の緊急使用を認める方向」（https://www.alic.go.jp/joho-s/joho07_002293.html）を参照されたい。

表5 EUの砂糖需給の推移

（単位：千ha、千トン）

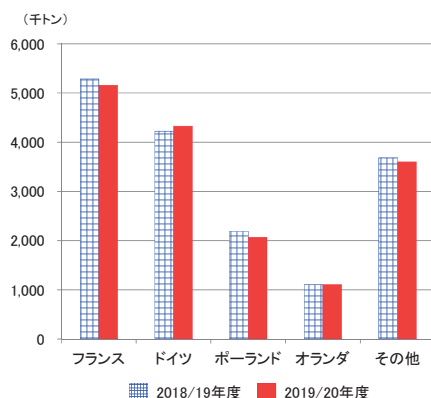
年度	2017/18	2018/19	2019/20	2020/21 (9月予測)	2020/21 (10月予測)	前年度比 (増減率)
てん菜収穫面積	1,624	1,599	1,517	1,477	1,477	▲ 2.6%
てん菜生産量	130,930	103,997	107,488	102,447	102,447	▲ 4.7%
砂糖	生産量	20,353	17,116	16,453	16,455	▲ 3.1%
	輸入量	1,566	2,349	2,384	2,386	1.0%
	消費量	17,332	17,447	17,185	17,087	1.6%
	輸出量	4,270	2,391	1,738	1,950	3.4%
	期末在庫量	1,664	1,293	1,731	1,733	▲ 10.2%
	期末在庫率	7.7	6.5	10.3	9.1	1.2ポイント減

資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, October 2020」

注：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

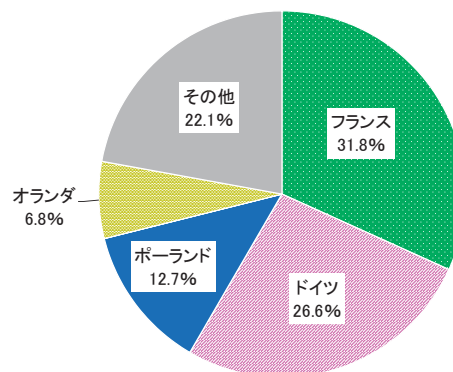
(参考) EUの砂糖生産見通しおよび国別の生産割合 (2020年9月時点)

EUの砂糖生産見通し



資料：欧州委員会
注1：精製糖換算。
注2：2019/20年度は予測値。

国別の生産割合



資料：欧州委員会
注：2019/20年度の予測値に基づく割合。

4. 日本の主要輸入先国の動向 (2020年10月時点予測)

近年、日本の粗糖（甘しや糖・分みつ糖〈HSコード1701.14-110〉および甘しや糖・その他〈同1701.14-200〉の合計）の主要輸入先国は、豪州、タイ、南アフリカ、フィリピンで、2019年の主要輸入先国ごとの割合を見ると、豪州が81.4%（前年比10.2ポイント増）、タイが18.6%（同9.5ポイント減）となっており、2カ国でほとんどを占めている（財務省「貿易統計」）。

以上により、この2カ国の動向については毎月報告し、フィリピンおよび南アフリカの動向についてはそれぞれ半年に1回の頻度で報告する（フィリピンは4月号および9月号、南アフリカは10月号および3月号を予定）。

豪 州

2020/21年度（4月～翌3月）の見通し

【サトウキビ】

収穫面積：36万ha（前年度比1.0%減）
生産量：3091万トン（同2.9%増）

【砂糖（甘しや糖）】

生産量：434万トン（同1.3%増）
輸出量：336万トン（同9.3%減）

2020/21年度、砂糖生産量はわずかに増加する見込み

2020/21年度（4月～翌3月）のサトウキビの収穫面積は、36万ヘクタール（前年度比1.0%減）とわずかに減少すると見込まれる（表6）。サトウキビ生産量は、記録的な干ばつに見舞われた2019年ほど極端な天候にはならないとの前提の下、3091万トン（同2.9%増）とわずかに増加すると

見込まれる。

砂糖生産量は、前年度の減産からの反動が押し上げ要因となり、434万トン（同1.3%増）とわずかに増加すると見込まれる。輸出が消費量の落ち込みをある程度補うと予測されるものの、輸出量は336万トン（同9.3%減）とかなりの程度減少すると見込まれる。

ラニーニャ現象が発生、サトウキビの収穫に影響か

豪州砂糖製造業者協議会（ASMC）は9月30日、2020/21年度のサトウキビ生産量3091万トン（予測値）のうち3分の2が収穫されたものの、ラニーニャ現象の発生により、残り3分の1の収穫に影響が生じる可能性があるとして、今後の気象予報を注視していると述べた。豪州気象局（BOM）は9月29日に、すべての指標がラニーニャ現象の発生を

示すレベルに達したと発表し、同現象は少なくとも2021年1月まで継続するとみている。同国ではラニーニャ現象が発生すると北部・中部・東部で降雨量が増えるため、収穫期の終盤に大雨となった場合、サトウキビの収穫作業の停滞が懸念される。一方、ASMCは、春の降雨は、2021/22年度のサトウキビの生育を促進させる慈雨となる可能性もあるとしている。

表6 豪州の砂糖需給の推移

（単位：千ha、千トン）

年度	2017/18	2018/19	2019/20	2020/21 (9月予測)	2020/21 (10月予測)	前年度比 (増減率)
サトウキビ収穫面積	376	379	364	361	361	▲ 1.0%
サトウキビ生産量	33,344	32,493	30,044	30,788	30,905	2.9%
砂糖	生産量	4,463	4,717	4,321	4,337	1.3%
	輸入量	27	18	20	58	2.9倍
	消費量	1,019	1,050	1,052	1,036	▲ 1.6%
	輸出量	3,590	3,562	3,706	3,362	▲ 9.3%
	期末在庫量	849	972	517	498	▲ 0.5%
	期末在庫率	18.4	21.1	10.9	11.3	0.8ポイント増

資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, October 2020」

注：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

タイ

2020/21年度（10月～翌9月）の見通し

【サトウキビ】

収穫面積：139万ha（前年度比14.4%減）

生産量：6750万トン（同9.9%減）

【砂糖（甘しゃ糖）】

生産量：794万トン（同9.8%減）

輸出量：481万トン（同40.5%減）

2020/21年度の輸出量は、大幅に減少する見込み

2020/21年度（10月～翌9月）のサトウキビ収穫面積は、今期作の作付け時点で、キャッサバなどのサトウキビとの代替性のある作物の収益性がサトウキビよりも高かったことから、代替作物がより多く作付けされたことにより139万ヘクタール（前年度比14.4%減）とかなり大きく減少すると見込まれる（表7）。干ばつの影響を受けて、サトウキビ生産量は6750万トン（同9.9%減）とかなりの

程度減少すると見込まれる。

サトウキビ生産の落ち込みにより、砂糖生産量は794万トン（同9.8%減）とかなりの程度減少すると見込まれる。砂糖の減産や在庫量の減少に伴い輸出余力が低下し、輸出量は481万トン（同40.5%減）と大幅に減少すると見込まれる。

ベトナム政府、タイ産糖を対象としたアンチダンピング調査の実施を発表

ベトナム商工省（MOIT）は9月21日、タイ産

糖^(注)に対するアンチダンピング調査を開始することを決定した。これは、同国の砂糖業界が8月20日、タイ産糖などの輸入量の急増を受けて、「海外産糖の急増が引き金となって、国内産糖の生産量が減少する恐れがある」として、同省に対して調査を要請していたものである。同省によると、2020年1月1日に東南アジア諸国連合（ASEAN）物品貿易協定（ATIGA）によって砂糖の関税割当枠が撤廃さ

れたが、その後8カ月間の累計砂糖輸入量は、前年同期比で約6倍の約95万トンと大幅に増加し、うちタイ産は約86万トン（同約6倍）と全体の約9割を占めたとしている。

（注）調査対象となる砂糖は、HSコード1701.13、1701.14、1701.99に分類される製品である。

表7 タイの砂糖需給の推移

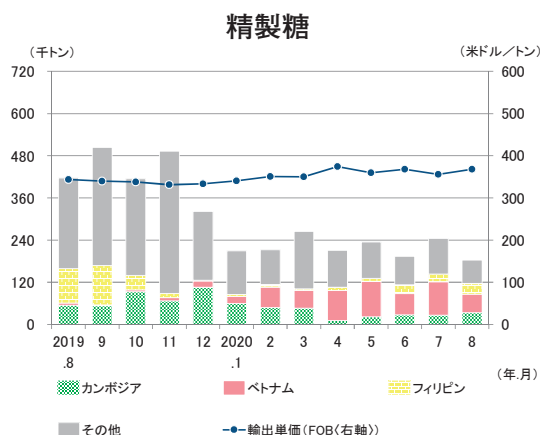
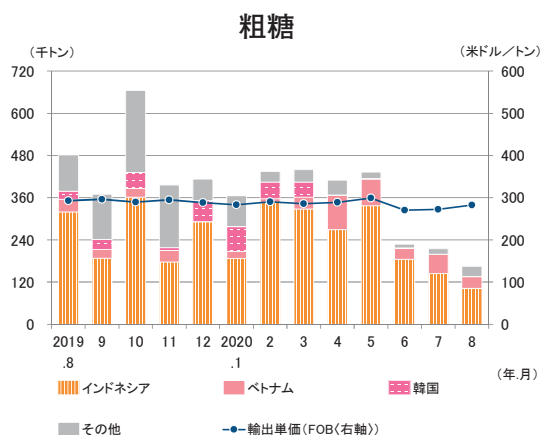
（単位：千ha、千トン）

年度	2017/18	2018/19	2019/20	2020/21 (9月予測)	2020/21 (10月予測)	前年度比 (増減率)
サトウキビ収穫面積	1,790	1,913	1,626	1,301	1,392	▲ 14.4%
サトウキビ生産量	134,929	130,970	74,893	65,000	67,500	▲ 9.9%
砂糖	生産量	15,586	15,457	8,807	7,940	▲ 9.8%
	輸入量	5	3	33	14	▲ 57.6%
	消費量	3,434	3,737	3,557	3,646	2.5%
	輸出量	9,820	10,113	8,084	4,628	▲ 40.5%
	期末在庫量	6,289	7,899	5,098	4,454	▲ 9.8%
	期末在庫率	47.4	57.0	43.8	53.8	10.6ポイント増

資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, October 2020」

注：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

（参考） タイの砂糖（粗糖・精製糖別）の輸出量および輸出単価の推移



資料：「Global Trade Atlas」

注1：HSコード1701.14（粗糖）および1701.99（精製糖）の数値。

注2：国・地域別の数値は、直近13カ月の輸出量（累計）上位3カ国を表示。